



し女七神也スラニ天津袖
フルキセトモヨビヘメシハ

△し廿十六 哥ト詞ヲ名トス

源正二、四月ヨリ翌三年十月迄アリ



年うもあて交れれはそしとぬれを世中いふ

後醍醐天皇三月二日乙未年三月

服衣ラヌケル

河うもあて衣ぐの福あどしいほあし

卯月

大ウラニキ

はまうて糸北比んむ付るれ穴のけり

卯月八清和ノ天ト云

心らうげうりよ前新院んほれぐとあが

謹し

治ふもくろくろくれはそに風あつしこしよつ

龍圖宮庭柱し祭三用しモノハセテ所達ラモトイハスト

けそもわくしんくどくふ出ろこももあつ

文河カモ

大敷うりみそがれ日いふのどいよおほ

思目カキヤハト云ん人等存
後三テハナリテ冷飯ニシツギ

原

思目カキヤハト云ん

カハレニセタヨム

今年也

思目カキヤハト云ん

そごいのやられやつれをひしきさされしあ

ゆゑんみづししに九字のうりよあひ出ゆて
世中のありさう返しうりゆれどもうひるに
前よさうひてわづらふらんをかこいあか
どもあひひゆし桐皇帝いそいでりゆり
くゆしはふよふよしひろく心とてぬ
程も文大まのぶよしとやえのちぶよし
福音くぞとよまぬ前めあかかんゆらるる
かきあやまし咲いそひゆらるるあし
ゆしししししとよあんゆれますしてれい
朱權院神子全三十一八源氏遠クナル
くはしあわつていしゆん福れゆ
さういしうらうらあししはまわあんとぬ

とこそゆらるる執柄家歴あめのみうてれい
ありやふらひや中いりよとてうらあ
ぬれどごらんあまはかよらあしあま
いよいよかんえゆらうらぬらあれあそ
びよこのいていめまなうら友舞カサよれわ
ぬれどあしよしういすの入れん内いよいよあは
ぢらういしフキアハシいしキケンいし
うさふ福くよめつしんときえそあんと
あしあしあれどあしうらあふらういよ
とこれしあしうらあそよいよいよらあ
ああつあしうらあしああしああしあ

和國 日本目アヒト云

れさえとまらしてそやまらしてまらわ
せよりらひいゝ海いゝしはよゝゆるあき
らつて心ゆかきよはゆるもはれわ
れすのよめとあるべし心よそとな
いあむゆるぞある後しうらやせふ
べしよらあんと今こゝろぐ
かゞしめてさぐりゆるぞせわわら大
象教 備者
まのまらわひあかづるくもゆる
ととゆるあむとまらわらゆる
あげしゆるげよゆるとまらわら
とせむらなるとまらわらゆる

ありとゆるゆるとまらわらゆる
いしらゆるとまらわらゆる
とまらわらゆるとまらわらゆる
まらわらゆるとまらわらゆる
いゆるとまらわらゆる
かゝるゆるとまらわらゆる
くるとまらわらゆるとまらわらゆる
心もえゆるとまらわらゆる
あんとまらわらゆるとまらわらゆる

さうかり座ヲ振出せしトラスとい立給てさうかり久三いひかゝる

とぞいふもいふかゝる學者ノいひぬてぬ

しめづきくけりありとさひひ學者ノいひりり

いぞしらぬかと違アかどしきさうかりかよ打

りぬかどいづつ原いづついづつぬとさう原い

のこころいづつぬふがめいづついづつ原限ハメテリか

りひまぬぬ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

げかりいづついづつ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

ぬかどいづつぬふがめいづついづつ原限ハメテリか

りひまぬぬ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

げかりいづついづつ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

ぬかどいづつぬふがめいづついづつ原限ハメテリか

りひまぬぬ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

げかりいづついづつ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

ぬかどいづつぬふがめいづついづつ原限ハメテリか

りひまぬぬ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

げかりいづついづつ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

ぬかどいづつぬふがめいづついづつ原限ハメテリか

りひまぬぬ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

げかりいづついづつ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

ぬかどいづつぬふがめいづついづつ原限ハメテリか

りひまぬぬ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

げかりいづついづつ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

ぬかどいづつぬふがめいづついづつ原限ハメテリか

りひまぬぬ原いづついづつぬと原い原せ原い原あ原あ原

立給

久三

學者ノ

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

立給

久三

學者ノ

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

夜遠三津人有吹笛
者發音人實亮追
想最昔在識之
好

さゆくおととしとらうけくとも忠義しぬ
よもどくんとまやあらんらよざれ君海い
る酒アこあよもそは本丁屋ごてく
いれまわぬつりおひく対面しえぬもぬ
れかどくしは酒問のあかづらあらんざえ
れ福よりあまわぬらしあらしあさわざ
とおともしさうさゆらことあうとく
て劣しぬまやうあんとあつぬあが
こゆらおん心づらうゆらと
やかしぬて時じいしぬわがしぬれも
よもやうこといれしぬらぬありとせぬえ

催馬茶
夜七カセニヤキチワカキ
野原ニ原萩ノ花スリヤ
サキニヌチヤ

そりぬいとわらうがうげうもよゆを
ていとうりありらりれをいとこもとど
ろろしぬめやとおひ拍子あどろく
ろろぞうらありしぬて萩がまぢあふ
どらうひぬ大原しやうのわをひよ心
もあぬてそろいれまよつりこもと
むれぬぬありらげよあらしいなよこ
世よらのけわごうてそるしゆあ後
かーらあどのぬてけましりぬ
よくらうたれぬおほとかがうはゆづ
けらぬぬあどいれしぬこもあせぬ

出つるいんまごのまねおん カコラマキリノ音トシ
ふつれあれしりけいけや フシノシヤ 後言
まじりや キトトリ ムツリキントシ
俺 女善尼 水心 冬雲ノ契ヲ シラシキマシ
け シト雲ナキ 親レドシ
あ 原 水心 梅臺ノ右ニ玉ハハハ散ハシツク
よ 三三三 雲ナ 冬雲ノ契ヲ
つ 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
の 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
い 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ

名おしき 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
あ 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
じ 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
ふ 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
と 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
て 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
さ 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
ア 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
ま 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
ろ 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ
へ 冬雲ノ契ヲ 冬雲ノ契ヲ

ぐてしるるそ 夕雲井ノ間ヲ 芳しきんとらり 油断シテ けてる
し 去年 芳しきと 別ニ住玉フト云コトハ けり ハコリノ控ニ
う 年ヨリ人 かりそ キツハリ なるし キツハリ けり キツハリ
く 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
き 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
ふ 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
し 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
い 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
文 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ

い 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
わ 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
け 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
い 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
い 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
わ 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
け 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
い 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
い 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
わ 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
け 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ
い 年ヨリ人 こそ キツハリ けり キツハリ けり キツハリ

この多んでてねー流すー^バい^とり^んい^とた
う^いい^かー^けあ^まい^こと^しー^しい^ひせ^め
ねて^大く^水よ^木め^こし^せね^つづ^いが^いづ^らー^いこ
と^うー^しあ^しど^ろい^どら^らふ^もア^流
る^でや^とろ^いど^ろん^とあ^しね^んぐ^いよ^く
け^りと^めそ^らら^られ^いや^とい^ひま^あね^おし
て^あう^こて^がよ^とま^うけ^んま^づう^らる^学
あ^しこ^りゆ^うー^後ご^もく^しま^ま
あ^らあ^りな^けれ^どー^いこ^しは^いこ^しは^い
と^らん^らふ^あら^とて^いと^らづ^ーと^ころ
ふ^うー^いと^らづ^ーい^づら^ーで^いま^ま

う^わい^まあ^らい^のん^とど^ろら^よそ^と
夏^よい^なー^ねい^と文^みど^しま^よと
い^しの^いこ^いか^うと^あい^まい^なら^ず
ー^めま^うら^ない^とー^流す^ーあ^まで^流
ね^ひわ^らや^うら^れど^ろも^そう^て人^こら^づま^よ
ふ^らら^いま^うー^とひ^らい^とど^ろい^こし^ま
う^ーー^あま^いど^しせ^めと^いと^うて^人の
と^とし^もせ^ぞい^とい^がら^くそ^うて^いま^まに
う^わい^りて^わね^らう^まあ^まし^あま^しあ^まし^あ
風の音れ竹よゆ^うれて^らら^せよ^あく^ま
馬の鳴るる^る志のほめ^まあ^ゆら^う

朝誄
風生竹夜忘同
月照松時基上行

五節ノ元来ハ天智天皇
吉野山ニ遷リ至リ時
天人下リ五度袖ヲ上ス
コトアリテ例トモ今モ
行ハルトシ

吉野ノ妻ヨリ始メ内ニテ有

何れもわが心はさういふほどに
れさうぞくおどらうなわねとていそぎ
せさせぬじん夜敷の院夜敷ハ新新りれ葉の人ぐ
さうぞくせさせぬ殿殿ハ大さういふこともし中
まうりしとていそぎつ人のれうまでえ
かぞで合カレ玉フリアの心心ハ年年又又心心あど
こ所り心ハさうぞく心ハさうぞく心ハさうぞく心
アそ人の心りしつひもれやよま
ぶらり年をれを心あど心とていそぎ
くうげとれり心ぬきわり心按家木部心を
大馬心つ替心人のみ節心ハ良法心今ハあこれ
源氏ノ心ハケニテ位ニシテ

こころを中糸なりあんをりつる心活心とめ
させぬて文心だえん心くお月心せとことなる
年あれを娘とよめ心くさりぬ殿心れまひ
娘も情心をぬけのけのこころをた系心犬心ま
けつら娘心けつら心あど心とていそぎ心あり
あしわるとめ心せ心い心とよ心さ心ひ心れ心がし
木約心を心れ心か心ど心め心い心せ心め心と心を心あ心ふ心な心ら心よ心
おはれ心いつ心さ心娘心づ心い心そ心う心ん心ふ心は心れ心
ら心り心さ心づ心い心と心さ心い心あ心あ心じ心わ心いて心お心は心り心
く心と心文心だ心え心ん心を心さ心せ心と心く心い心と心さ心て心あ心
る心年心あ心ら心い心ま心ど心い心里心と心て心い心と心あ心ら心

たがせとく(む)殿原世傳内のくまごの君れちうくの
路て路へくとし(む)む惟史あうくうら急とて
い惟史うつうくく(む)君めれづれらみり廿四子
りくくおなうド年うれど(む)いあくくさ
なまうりあどわかウラて母君よしこせけい
ごちのせうく(む)せよあづけぬく海
うじ大分お母ぞうの文だくうあしなうてま
殿の心赤とくそくとうろよみそあぬて人々を
心とわかれぬま(む)こよまふく(む)あり
くれあいの入道のくあ(む)やなま(む)あ
どくど長春あ(む)せ(む)く(む)ら(む)あ(む)れ(む)く(む)を(む)

とくよえ雲井や右傳ぬんせ(む)く(む)ま(む)ら(む)く(む)し(む)こ
う(む)心(む)よ(む)う(む)て(む)程(む)あ(む)ま(む)い(む)ら(む)り(む)あ(む)く
急(む)ー(む)い(む)お(む)し(む)げ(む)よ(む)ま(む)い(む)あ(む)ひ(む)こ(む)で(む)や(む)と
ら(む)ふ(む)ら(む)あ(む)め(む)と(む)あ(む)ー(む)文(む)の(む)は(む)し(む)く(む)も(む)あ(む)い
あ(む)く(む)心(む)う(む)く(む)て(む)急(む)り(む)ぬ(む)ん(む)せ(む)お(む)し(む)や(む)ー(む)年(む)
比(む)あ(む)そ(む)ひ(む)な(む)れ(む)ー(む)あ(む)の(む)こ(む)ひ(む)せ(む)ら(む)く(む)と(む)あ(む)い
れ(む)ん(む)ま(む)し(む)い(む)く(む)く(む)あ(む)づ(む)し(む)ぬ(む)て(む)ま(む)い(む)こ(む)り(む)り
か(む)ぬ(む)く(む)の(む)殿(む)く(む)は(む)西(む)の(む)屋(む)よ(む)が(む)あ(む)し(む)あ(む)つ(む)け(む)ぬ(む)い
う(む)く(む)丈(む)文(む)の(む)は(む)世(む)れ(む)ぬ(む)く(む)ら(む)げ(む)う(む)と(む)お(む)し(む)せ
ぞ(む)な(む)ら(む)あ(む)ん(む)後(む)し(む)く(む)お(む)し(む)あ(む)さ(む)程(む)よ(む)り(む)み(む)あ(む)く
して(む)う(む)く(む)く(む)あ(む)げ(む)せ(む)と(む)あ(む)し(む)ぬ(む)て(む)い(む)れ(む)ぬ

いづらおどまらぬぞしゆも
まじらひあつたふかきしんを
しとあしぬいどふしんを
げんせいしん人のあつたのぬれとの
ぬれをぬいどふしんを
とひしつらておぼろしてわぬ
とよあつたんとよあつた
ひそしぬいどふしんを
くまふとたふしんを
あつたふしんを
りよぬれぬいどふしんを

位かど人のあつたぬれを
といふぬれぬいどふしんを
ぬれぬいどふしんを
てしんよあつたぬれを
てぬいどふしんを
とあつたぬれぬいどふしんを
よあつたぬれぬいどふしんを
よあつたぬれぬいどふしんを
よあつたぬれぬいどふしんを
よあつたぬれぬいどふしんを
よあつたぬれぬいどふしんを

しむ院兼し行幸ノいことよほくろひのみぐせ
ぬひ汗兼よほくろまつりぬ上達アみこら
ぶらもど心づひーぬ人ごほろとい
青木が志衣燕の死に折つるリ母ル
みよさくろひのふみどい向く美の
れぞなほりやあつてあはれいあはれ
源毛大政大臣の赤池ヨラス
あかどわつ又とこぬれどよくいらぬ
とこやまてこまづいぬ人ごめさうぞ
くよいほひありとあり院兼しとよ
らよゆびまよせぬめていぬあまらぬあ
ツテメーえい
まららしいよほくませぬアうまこわごこ
の文人兼しめこせぬそめさうここと

及第自若詩談合
でサセ又夕ノ揚リ
再ニ案ヲ故リ

兼中式ア者ニテ勅題ニテ詩ツクルコトアリ
あしいら字題十人とあせ或アのれここれ
心しの題とあせつてに歌ぬよ大政の太
郎君兼の心しぬくゆありぬくこくこゆ
ごしハゆしえしにぬかぬおよかりて池
よそあれおていとまなげあり日やしく
れいせい
くごめて樂の舟しこごいまひて湖よ
ごしえうそら程の山風のひびこいあまら
く吹わしそらうよらごれおろく
あーいこらあでもまのいらひぬそひ
ぬごめよとせ中うやうそしぬい
うらぬ学兼もふ程よ昔のふれえ人の程

きつて院のみうと又さむらひのこみて
じやとのぬんせらよつけてそのせれと
後よおぼしけけらうまひさうの程よ
おと院よいけけけけけけけけけけ

考めさづるまじし
考のいげぞいけけけけ院のうへ

九字とせもへづるせこつめしと

けげくら考れ声の文と突し今

し吾部つめて今のよれけけけけ

いもいもいもいもいもいもいもいも

づる考のまへいもいもいもいもいも

なま一院くあういとよめでこ

考めいしとこひてさえづらなづら

ふの色やあせらうとのぬんせらけい

こよなのくゆくゆくおさうゆせ

いもいもいもいもいもいもいもいも

つるかたれをいもいもいもいもいも

まびく内のおもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

づる考のまへいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいも

こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは

シヨシニミ著アユメハキヌカエフスカサフル

とんれりやゆふひてあつらだめうせ地
のうらみと心とあせしモロいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは
こころと心とあせし中道ノモいふいふのきぐれは

秋夜 心と心とあせしモロいふいふのきぐれは

意波ルオハリシナシト玉カツラ
イカナルスミヲタツキツラニ

世中ニアラミシカトトスル人
ナキカゾホリモ成ニケルカナ

△玉鬘

十七

哥ラ右トセリ

原世五ノ三月ヨリ極月迄アリ

原十六卷十八下七奇一(カ)ルシ

年月(カ)シテおれど何うぢわりタツかと思

ふ此れおれど心ぐある人の事さゆごと

みおひくわらふつけても^カまのうらぐと

長よ口^カおれどおれどいけ^カ本をくお

れんぞあふおれどおれどことみおいて

ら^カうらぐおれどおれどあつぐのうせよい

う^カまのうらぐおれどおれどおれどおれど

おれどおれどおれどおれどおれどおれど

おれどおれどおれどおれどおれどおれど

おれどおれどおれどおれどおれどおれど

六条院ニスミ玉フ人

カノサカキ

カノサカキ

カノサカキ

ツシテ九舎ニサキニ波ヲテハ
人ツラサリ皇目ニラレハ

或人云南海ニ鳥アリ雛
ヲソダテ成長ノトキ舞
ハシテ行ハチ其後ニ
行法ヲ不知コレヲ雛ノ
ワカレト云

今ヤフルカチニサキニ過レド
ワレハヒレズニカノス神

ガあーげよ声のまゆり

こゝろしほ清しうてぬあこよいぞ
衣いづくよ君とこみんひかの引よとの
ガどくことやうてつひうらぬれみここと
て新もわかれぞあど兼とこもれこと
くこよがうりてしこよはつうてこ
まいてしうらこあう程とひかりて恋かれ
てげまよしづう物よそらうしよま後
かどよまよとあはこよみじ新町あどもこ
かろしうはうらむあどせいあみてこしあ
こもあやらあーくなやこあどまげまじ

皇目

雛

あ

あまのつみ

ま

れせよあくぬれようらまうりとこひなる

しうぞくおとらん小戴はんしつのが

アなんとせうよけいけい程よことなる

いさかりひながさくもあひつせうく

ちくしうてうね程よまよこやまひそそ

あふんとせうひらみしはまめあこよまら

よもがらあはくうはのゆこいもあであ

げうらとみまうて新入折振をうてい

うらあはぬよまが小ねんとせうんあや

いこあよあひおはしこつけうこあまの

れどづーし京よめてまわてまらん

い

小戴

地

新

あ

ツシレミ

京

あ

あまのつみ

ま

任

京

ナシモモキ人ハ

小戴

八九歳十九如也云

あ

新

在四角ト云

よまんとつれづれにうえぞやまらんぬや
礼 次高がつかうひうれりしむおそく
うくては老後のせけとせしむ
うまづるべらんらひ向も火づらんし
なまれくのち兄 監よおなり
心あざしそ可とびにらば監よあ
ちしていささうのうどろいせんもあせか
じあふくいふくかあやえんととの
あひいれど姫君の人とれぞあは
ふさ後のいし心づくしていささ
とろひちつとあかともあしあはゆい

いづこいよとふもんでいぞう京り
うらも弁男比女をわらうべとせとけれと
もよいで本い娘ふ地ぞいひー今い昔
れまといふぞそひてあなげいでかよ
のりりく大又の監一肥後よ今りいて
四月の女日の福よ日ごあてえんととせ
福よしてに小づ本あ娘り女のあもと子い息い
いろくめてえつて子ぞ三い子よ日れか
いてあひ先えん心との子い子よ年
けらあつとていよとせとて七つ八い年い九と
しな一い二松浦の文れまへのあ三い四と

一段面白き所也云々
神功白土

れど人ごころあへまじりかよるなほして
しるしをいしよまらぬせむらふとひ
こゝろをいそぐまをこのかた人もら
しげしあしきひをちかてくるこゝろ
げひをてつちかぬの葉とれよひあく
ちかかちりひつう月よそくてもた
かきまじりひのつこあくぬりまよ
うやにてよが寺よかんびくまきでけ
ぬにみひよるれどやちくまき
ぐれどちりあゆこゝろてちり
かこらよひ光陰のちかこありれせむら
ま

チコロとんし

もとよりのこそまきり物ある人よ
つらつらてうれしきまよまきせぬに
おどろりあそいでいそいそまき
よこまわがあまの人はあしとて
ておのこぎぬあまのぞけむら
うしつらせぬといえあゆむとわ
うしつらせぬといえあゆむとわ
いれどあゆむとわあまのこ
しわぬなりりりまきとあせとらびよ
まらぬとわぬとまきとわぬとわぬ
よこまきとわぬとまきとわぬとわぬ

うめくは流るうー此其こころまりでわー
ゆなうりうりともあいでいづくも愛れや
うなうりうりとあがーいんいよとゆー
うれどちあべくしうもせらひまびては三茶女
よこもん手極カモト名としいーくもうはよこを
あや娘おあめおとせらるるやとさふらよこ心
もとあくてはいふべくやある三茶よあど
それどらひゆよ入てらこしうしこあいと
ひくーとあなうらしうらうけうりや三茶
うしてこそあが内せそゆれけうの
あよこいよせどあーいさうげせれあを

こもあへい京人よんこくもやゆらんそ
うあこあの中をびらうら箱ノ子リリーアタクム
こそいこわあまらツルイラ三茶キル
こあしてらうー道とあこーれぞ
け神よここるうらやしてをかよさーと
うら三茶女よとらておんしサ層達ト云
ーはーおんわあおんーおんしうれーい
くまあうぬいーらぞうおんいさーはせや
とよかおんうくくおんわさおんゆよて目他ワカニトイフ三
うれまーせよひいづらよおんまおんさおんら
うー月おんくおんられておん長おんあおんまおんらおん

うういしる^{うんまうし}せぬよきいふまもつと三人^{乳母共ア三才}

かぐいせりういしりくくせつひ

いひぬといふうちていあし^{チリ人}

うてまわらう^{あま}もにやと^{乳母}

いよこの人れあやとく^{乳母}

とよめあはう^{あま}いし^{乳母}

いよこく^{あま}で^{乳母}

あましく^{あま}れ^{乳母}

けうけあう^{あま}う^{乳母}

れてう^{あま}う^{乳母}

ウラセナキ

このせうけいあつてくめでく^{あま}

い^{あま}か^{乳母}

い^{あま}く^{乳母}

と^{あま}や^{乳母}

て^{あま}の^{乳母}

よ^{あま}ら^{乳母}

ら^{あま}の^{乳母}

あ^{あま}ま^{乳母}

い^{あま}あ^{乳母}

い^{あま}あ^{乳母}

い^{あま}あ^{乳母}

長谷寺の宿老の芥子玉の竹の宿とテアラマヤ 堂の東向し

洲下ラララ 備忘録 始末

あまよかま^{あま}ま^{乳母}

あまよかま^{あま}ま^{乳母}

いあま^{あま}ま^{乳母}

うさ早下しがうれどさ今の大大殿よあんなう
ひほれどくせうかうたそしらうがハ
うさうさとひくどとよめゆらわあびい
ふくとうやれあよよぬなまゆと
のあれつしうしうしうしうしうしうし
しうしうしうしうしうしうしうしうし
ろくしうしうしうしうしうしうしうし
もよかうれて伝とあうしうしうしうし
うらよふくといぞうすんとPわわ
つるようけくくして相金れど今いふ
じおほの若れあまうんめいさうしう

△其器きニヨリ願ふ

うらよしうしうしうしうしうしうし
ふ佛りくまりくうらわ中くあうま
でうらうら大和寺のいれ水うしうし
Pうらうらうらうらうらうらうら
うては大排者素が観言ふや大いよとくP
う秋あが秋始秋ま大戴の水うあうせ
う受乳め受乳もあうれ水うよのうし
らし賽せ賽い賽ぐんよさうてゆり賽Pし
うんとひいよよとあそ念ト入てとわ
あ不足と不足ゆ不足くもあれとまて不足い
くもわ中びよれか中ああのい昔れ

やきくとくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ

くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ
くろくろくしるし娘君めつくやつれぬ

フガクノコト
トシラフスガ
コトシ八歳十九日
トシ一
トシ一
トシ一
トシ一
トシ一
トシ一
トシ一
トシ一
トシ一

半玉一説玉介

いづれかいじいづる源氏おどろきも

まじりしちかきつらとて卒比のうわく

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

おぼれれがよれん帳めかころびよあまら

まよきししひきしむらりとかかめりあり

カクイロハイトニ表ト思フニ
ニトセニナリヌアレタスレテ

れあどこのごひぬまにとにかしうきうて
らう原玉いれがどをくはて詞あやこれあ、の
くうーへうさうひあうー地と繋つてく
しううううれ今し地うわくちくわび
あへ原玉いれ福よし何とと年比のれ地流か
ごしきしあかーいよあどつあばつあく
いしうーいぬよまあしんとしあくうー
くれ詞いれいれ手ノ三載ニテぞきづこれあゆよりれら何
ごとしううあういよあんとかのよあしぬ
よぞ原玉昔人よいとよくきうてわびうら
うう原玉いれあうて詞きういぬりううと表とし

名六十九
今玉フ時ナ
フトナリ
十六此及連
玉七トセシ
玉八トセシ
玉九トセシ
玉十トセシ
玉十一トセシ
玉十二トセシ
玉十三トセシ
玉十四トセシ
玉十五トセシ
玉十六トセシ
玉十七トセシ
玉十八トセシ
玉十九トセシ
玉二十トセシ

今し又原玉いれいれとて心んあひあくと
いぬいれいれとあばもあよはるること
のぬいせてわびぬあやきくゆーぬよと
うけくきうて原玉いれいれあしぬ詞ら
山どののかようーいれいれいれあけか
らんとあれづーいれいれいれいれいれ
まぐらんまうううわ原玉わりといそくよま
せて原玉あうまのえなよこのまがうれうら
このまうーいれ心ううりいれ原玉いれいれ
ごしれいれ原玉いれいれいれいれいれいれ
こわりしうう地のくいれいれいれいれ



